

目指す子供の姿

- 音楽活動を通して、曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について、理解できるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付けて、演奏したり音楽をつくったりできる。
- 音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽表現を創意工夫し、よりよい音楽表現を生み出したり、曲や演奏のよさや美しさを見いだしながら、音楽を味わって聴いたりできる。
- 音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組むことができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容**①音楽活動の中で、実感を伴いながら知識を習得したり更新したりする学習活動の充実**

- ◇音楽に関する歴史や文化的な意義を、表現や鑑賞の活動を通して、自己との関わりの中で理解できるように学習過程を工夫する。
- ◇既習の知識と新たに習得した知識等とが結びつくことによって知識が再構築されていくよう、学習過程の工夫や各活動を有機的かつ効果的に関連させる。

②技能と「思考力、判断力、表現力等」の育成とを関わらせた学習活動の充実

- ◇創意工夫の過程で、様々な音楽表現を試しながら、思いや意図を明確にしつつ、技能が習得される学習活動を設定する。
- ◇変化する状況や課題などに応じて、思いや意図を深めながら主体的に活用できる技能を習得できるように学習課題や学習形態を工夫する。

③生徒の思いや意図を音楽表現に生かしたり、音楽のよさや面白さを見いだし、曲全体を聴き深めたりすることができるような学習活動の充実

- ◇「生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素」を明確にし、知覚と感受との関わりについて考える学習場面を設定する。
- ◇他者と関わりながら、音楽表現を創意工夫して音楽で表したり、音楽のよさや美しさを味わって聴いたりする学習場面を設定する。

④ICTの効果的な活用による表現及び鑑賞の活動の充実

- ◇デジタル学習基盤を活用し、音や音楽の可視化、シミュレーションによる比較聴取などによって、生徒が様々な感覚を関連付けて音楽への理解を深めたり、主体的に学習に取り組んだりすることができるようにする。